【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第２区分
【発行日】平成17年7月21日(2005.7.21)

【公開番号】特開2000-193054(P2000-193054A)
【公開日】平成12年7月14日(2000.7.14)
【出願番号】特願平10-373169
【国際特許分類第７版】
　Ｆ１６Ｈ　15/38
【ＦＩ】
　Ｆ１６Ｈ　15/38

【手続補正書】
【提出日】平成16年12月9日(2004.12.9)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
　トラニオン６の内側面側に回転自在に支持したパワーローラ８Ａの軸方向両端面（図１～３の上下両端面）のうち、上記トラニオン６と反対側に存在する内端面３５の外径寄り部分を内径寄り部分よりも軸方向に凹ませる事により、この内端面３５の直径方向中間部に、段差３７を形成している。そして、この段差３７よりも内径寄り部分を、全周に亙り外径寄り部分よりも軸方向に突出した、環状凸部３８としている。尚、この環状凸部３８の外径D_{38}は、上記パワーローラ８の内径R_{8A}の１．１～１．８倍程度｛D_{38}　（１．１～１．８）R_{8A}｝に規制する。又、上記パワーローラ８Ａをトロイダル型無段変速機に組み込み、このパワーローラ８Ａの周面８ａと、入力側、出力側両ディスク２、４の内側面２ａ、４ａ（図５～７参照）とを軽く（殆ど無負荷状態で）当接させた場合に於ける当接点Ｐ（図１０～１１参照）が、上記周面８ａの小径側端縁よりも少し（接触楕円が内端面３５側にはみ出さない様にできる分）だけ、この周面８ａの幅方向中央寄り（トラニオン６寄り）に存在する様に、上記段差３７の高さH_{37}を規制する。